

いるし、ライブだとステレオ・パンに分離してカッコいい。若いリスナーには注目して欲しいな。
——ザ・フー風の曲が何を指すのか不明だが、ここにタイトルを出した曲以外では、「Nobody Left To Blame」「I Won't Get In My Way」「I Get The Feeling」、そして日本盤にはボーナス曲「Kill Me With A Kiss」が収録される——

エフェクターは常に 科学実験を繰り返した

YG:では、録音で使ったギターとベースを。

BS:今持っているヤマハが絶。最近、E弦のゲージを[.120]のセットに変えたんだ。とてつもなく太いよ。おかげで低音が凄くソリッドになった。マイク・タイソンばりにヘヴィだ。

PG:最近EはEに下げている(全弦半音下げチューニング)から、僕も今は[1弦=.011]ゲージからの太めのセットなんだ。チューニングを下げると弦の張りが緩くなって技巧は出しやすいけど、でもトーンの良さやピッチの安定は損なわれる。と考えると、太い[.011]にしてチューニングを下げる方が合理的だし、実は技術的にも、太い弦の方がテクニカルなフレーズではツラくはなるものの、総合的に見てこの方がコントロールしやすいんだ。

BS:張りが緩やか過ぎると、指先からズリ落ちるって感じなんだろ? チョットは弦の張りと言うか、抵抗が必要なんだよな。

PG:ローラーブレッドを履けば歩くより速く進めるけど、止まるのは難しい。

BS:良い喻えだ(笑)。分かるよ!

PG:僕は安定して止まりたいんだ。速く進む時、つまり速く弾く時はそんな事を思わないよ。確実に地面を蹴って進めばいいだけだから。それが太い弦に対す

る僕なりの喻え話。

YG:なるほど。で、使用ギターは?

PG:ギターは3~4本使ったかな。メインはアイバニースの「Fireman」と'72年製の「Artist」。それから「PGM」の12弦だね。昔のMR.BIGでよく使ってたヤツだよ。あと、バット・メセニーのようなホロウ・ボディも使った。セミ・ホロウじゃないけど完全なホロウ・ボディだから、このギターはフィードバックを起こす事が多々あってね。そこがタマにキズだったけど...僕はドラムに近い位置で弾いていたんだ。バットのビートとしっかり合わせられるようにね。かなり側で弾いていた。すると、ドラムの音がギターを揺すっている訳。だから、録った後でプレイバックすると、1つのトラックにギターとドラムの音が混合していたりしてね。ギターがマイク代わりになったらしい。確か「Nobody Left To Blame」だったかな。ケヴィンに「ギターを替えた方がいいかな」と相談したんだけど「いや、そのままがいいよ」で、そのフィードバックも活かした訳だけど、結果、クールな仕上がりになったよ。ルーム・アンビエンスを1つ増やしたみたいだった。そういう意味でもあれはいいギターだ(笑)。

YG:アンプとエフェクターは?

BS:俺のアンプはハートキーの...ナントカの500。細かいところは忘れた(笑)。アンベグを長年使い続けていたけど、今はそれに替えたんだ。ラリー・ハートキーは何年も親しくしている友人でね。これまでエディ・ジョブソンとの日本ツアー(10年)やその他色んな所で使ってみて、素晴らしいサウンドだと実感した訳。ソリッドでタイトで、最高だよ。それからいつも通り、ラックに入ったピアースのプリ・アンプ。あとはアシュリーのコンプレッサー、ノイズ・ゲートはISP「Decimeter」...それだけだ。

PG:僕はマーシャル「VintageModern」。殆どはこ

れだね。念のため他のアンプも用意してあったけど必要なかった。少しツマミ類をイジるだけで何にでも対応出来るし、12弦用のクリーンな音もそれで作り出せるんだ。一方、エフェクターは常に科学実験を繰り返していた。毎日替えたよ。総てのペダルの裏にマジックテープを付けてね。曲毎に「ここに効果的のトーンが必要」だと思ったら、即ペダルをはがして他のものに差し替えた。フランジャーは全部で3台使ったかな。ADAはクレイジーな音を出す時、フルトーンは気が向いたらたまに。それとMXRの「Phase 90」(フェイザー)はいつも通りに役に立った。それからマジック・ボックスの「Fuzz Universe」オーヴァードライブ。12弦にはこの辺りがよく効いたよ。あとはH.B.E.のイコライザー「Detox EQ」と、「CPR Compressor Retro」(コンプレッサー)。これがあると、12弦の高域のジャングルっぽい雰囲気がよく出るんだ。

YG:「Stranger In My Life」は? レズリー風のジミー・ペイジみたいな音を出してたよね。

PG:ああ、あれはヒュース&ケトナーのエフェクト(「Tube-Rotosphere」)。それからトレモロも掛かっている。僕のフェンダーのアンプにもいいトレモロ付きがあるけど、それは今回スタジオに持って来なかったんだ。あのトレモロ効果は、ケヴィンがProToolsで加えてくれたんだよ。

YG:さて、スタジオ・アルバムが完成。この後は再びツアーだよな。予定は?

BS:日本の前に南米に行って、3月の終わりにL.A.の「House Of Blues」で1回。それから4月に日本ツアー。大阪城ホールを皮切りに始まる(編註:日本公演の日程はP.202を参照)。あと、ヨーロッパの方でブックイングが進行中なんだ。その後、アメリカを回るのは夏辺りかなと思ってる。オーストラリアに行く予定も探っているし、多分東南アジアも行くと思う。

Paul's New Effect Dvice

ソロ作品の名を冠した最新シグネチャー・モデル

10年8月号に掲載したボールの最新ソロ・アルバム「FUZZ UNIVERSE」に関するインタビュー。その中で彼が語っていた言葉を覚えているだろうか? 「僕の友人がマジック・ボックスというメーカーを始めたら、そのエフェクターを使ったら凄く良かったから、今度自分のエフェクターを作ろうかと思ってるんだよ。それを「Fuzz Universe」と名付けられればいいな...」というものだ。そのペダルが完成、リリースされて話題となっている。

今回の取材時にボールがYGのために、この「Fuzz Universe」をプレゼントしてくれた。「ファズ」という名前が付いているが、実際はオーヴァードライブ/ブースター。同社の「Body Blow」(オーヴァードライブ)と「Venom Boost」(ブースター)を合体させたペダルで、2つのスイッチでその機能を使い分けられる。インタビュー中にもあるように、本機は「WHAT IF...」のレコーディングにおいて早くも活躍しているようだ。

Fuzz Universe by Majik Box



▲青紙にはボールのシグネチャー・モデルである事を示すサイン入り。

▶本機下部/左側の「Thrust 2」スイッチがブースト。右側の「Thrust 1」スイッチがオーヴァードライブ/ブースト。上にある同名のノブでそれぞれのレベルを調節する。



Special DVD → see P. 44

ポール&ビリーによる最大級のDVD映像収録!

既にYG読者にとってはお馴染みとなったであろうボールの付録DVDへの出演。しかし、待ちに待ったMR.BIGの新作発表というスペシャルなタイミングゆえ、今回のDVD映像もいつもと違うスペシャルな

内容でお届け出来る事になった。何とポールとビリーの同時出演が実現したのだ!現場では取材班の想像を超えるスーパー・プレイが繰り出され、ギタリスト/ベーシストならずとも必見の映像となっております!



もの凄くロックでヘヴィだよMR.BIGは戻ってきた!